令和3年度業績表彰結果

得票数	内訳		No.	標題	個人名/組織名	推薦者	概要	効果	該当事業種別					
	HP	1階掲示							発信・表彰	市民協創	チャレンジ	災害支援・善行	地域貢献	その他
									6	5	10	2	1	1
45票	4票	41票	9	市　長　賞 市民推薦賞 所属を越えて、新型コロナウイルス感染症から市民を守ろう！！	生駒市役所　「チーム保健師」	福祉健康部 部長 近藤　桂子	生駒市役所には健康課・障がい福祉課・介護保険課・地域包括ケア推進課・国保医療課・公立保育園などに分散配置された保健師が計30名（育児休業者含む）在籍し、それぞれの分野で活動しています。昨年度からの新型コロナウイルス感染症対策において、保健師が医療分野の専門職として所属を超えて一丸となり、感染拡大防止やワクチン接種の円滑な運用に重要な役割を果たすことができました。	【感染症対策】　本市が主体的に感染症対策を行うため、それぞれの所属の特性を活かし、事業者間の連絡体制整備や事業所への実地指導その他の細やかな感染対策への支援体制を整えました。 【ワクチン接種】　未知のワクチンに対して誰しもが不安を感じている中、医療的観点からワクチンの適正な取り扱いや看護師や薬剤師をリードするなど、市民の皆さんに安心安全に接種していただけるように環境を整えることができました。				○	○	
13票	2票	11票	7	市　長　賞 新型コロナウイルスワクチン・大規模接種会場等の運営・管理	福祉健康部　健康課内　大規模接種会場運営チーム	市長公室 公室長 増田　剛一	新型コロナウイルス感染が拡大の一途にある中、本市においても市民へのワクチン接種の迅速な対応が求められていた。そのような中、生駒市では、数ヵ所の集団接種会場でのワクチン接種に加え、新に接種者数約1万人規模の「大規模接種会場」を設けることで接種の加速化を図り、市民の生命を守ることを第一に、その対応に当たった。	・健康課ワクチンチームの助言を受けながら、接種会場に従事いただく多数の医師、看護師の確保や接種会場の運営・管理に当たり、1回目接種（6月23日から6月29日）、2回目接種（7月14日から20日）の計10日間で、延べ約９，６００人の方々に接種を完了した。（チーム編成期間：R3.6月初旬～８月初旬）また、当該期間、コミセンおよび北コミの2つの集団接種会場は、チームが会場責任者となり、その管理運営に当たった。				○		
25票	4票	21票	8	市　長　賞 「希望する１２歳以上の全市民に、迅速かつ安全にワクチンを２回接種」という前例なきミッションを遂行！	福祉健康部健康課内　新型コロナワクチンチーム	福祉健康部 部長 近藤　桂子	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、希望する１２歳以上の市民(約１０万６千人)に対し、国が示す期限までに、新型コロナワクチンを安全に２回接種する。	2022.1.4時点で、12歳以上人口の87.1%、92,818人が2回接種完了しました。 《内訳》 65歳以上の接種率　97.0%(32,783人) 12歳～64歳の接種率　82.5%(60,035人)			○	○	○	
94票	15票	79票	14	市民推薦賞 公園の新たな利活用　～「公園でつなぐ応援マルシェ」の伴走支援～	みどり公園課　公園係 係長　粉家立樹 主事　関口達哉	みどり公園課 課長 知浦太一	7月～12月に市民主催のキッチンカーイベント「公園でつなぐ応援マルシェ」が３カ所の公園で開催されました。「キッチンカーでみんなを元気にしたい」という主催者の思いを受けて、主催者と一緒に、企画や場所の選定から伴走支援し、主催者と地元との顔合わせ、イベントPRなど準備に積極的に携わり、イベントの実現に導きました。	地域の公園の新たな使い方を広く市民に知っていただくことができました。また、公園に人が集まることで生まれる活気、音、光、においなどが周辺地域に更なる活気を生み、住民同士の新しい出会いの場づくりになりました。		○				
45票	0票	45票	17	市民推薦賞 祝市制５０周年！未来ある子ども達の笑顔で祝おう！	生駒市内の公立幼稚園・こども園・保育園	教育こども部こども課 次長 坂谷　操	生駒市制50周年のお祝いに花を添えるため、市内の公私立幼稚園や保育園、こども園、市内外の認可外施設などに通う5歳児1,055人の園児が紙粘土で「自分の顔制作」に挑戦！完成した作品はすべて市役所や北コミで展示。こんなに笑顔が並ぶと圧巻！笑顔パワー全開です。	今までの50年を振り返り、子ども達は絵本やおはなしで生駒の歴史に触れたり、生駒市内の施設訪問をしたりするなど、顔制作にいたるまで、各園いろいろな角度から生駒に触れ、生駒がますます大好きに！ 作品をまとめて展示したことで、たくさんの市民のみなさんが見にきてくださり、これからの50年を担う子ども達の笑顔から元気あふれるエネルギーと癒しをお伝えすることができました。						○
12票	2票	10票	1	優　秀　賞 50年を振り返り、これからの50年を考える。生駒市制50周年記念事業	市制50周年事業室	市長公室 次長 小林　弘幸	記念式典の開催、記念動画の作成、記念誌の発行、特別表彰・感謝状の贈呈 生駒市のミライを考えるシンポジウムの開催 奈良先端大との共催によるシンポジウムの開催 新規又は新たな要素を加えた市主催・市民主催冠事業の調整・支援 記念花火の打ち上げ、ガバメントクラウドファンディングによる寄付の募集 友好都市の締結、奈良先端大との包括連携協定の締結	これから先の50年を担う新たなまちのプレイヤーを掘り起しながら、「脱ベッドタウン」と「協創」を着実に進め次世代の住宅都市を目指した新たなまちづくりの出発点となる取り組みを実施した。 具体的な成果としては、新規又は新たな要素を加えた事業として、市主催事業が40事業のほか、市民主催事業が32事業開催され、延べ8,600人以上の市民が参加した。また、市民や事業者から87件、6,073,815円の寄附があった。	○	○	○			
22票	3票	19票	6	優　秀　賞 「もし、今災害が起きたら・・？」　大地震を想定した総合防災訓練を実施	総務部 危機管理監（総務部次長） 澤井　宏保	総務部 部長 杉浦　弘和	市民も職員も災害発生に本気で向き合う、「市内全域まるごと訓練」を企て、実践に導く中心人物 （従来のデモンストレーション型の総合防災訓練を一掃。実践的な対策本部訓練と市内全地域、全避難所を同時進行する訓練に取り組む）	なぜか、災害時となると全て誰かにお膳立てしてもらえると思い込んでいることが多いが、災害時こそ、自ら考え行動することの大切さと、訓練の大切さが伝わったのではないか。 引き続き災害への初動体制や対策本部設置の手順や配置など、本市ならではの災害対応を訓練を通し充実していく必要があることが明確になってきたと感じています。				○		
17票	2票	15票	16	優　秀　賞 教育現場の声から生まれた「オンライン修学旅行」	生駒市立あすか野小学校 教育こども部教育指導課	教育こども部 部長 奥田　吉伸	令和2年度に広島に行くはずだった修学旅行は、コロナ禍により中止を決定した市町村が多い中、本市ではバスで行ける範囲という制限のもと、別の地域へと変更になりました。残念そうな子どもたちに対し、あすか野小学校の担任の先生は、本来6年生で行うはずの平和学習を、特に広島での平和学習を実現できないか、教育指導課のキャリア教育プランナーとともに検討を重ね、オンラインでの広島への修学旅行を実現しました。	新型コロナウイルス感染症の影響で行けなかった「広島」にオンラインで行くこと、また、「平和とは」という命題に対し、未来、過去、食、広島の同級生、外国人等様々な角度から学ぶことができました。さらに、広島電鉄への乗車など、1人1台に配布されたタブレット端末を最大限活用することで、オンラインでなければできなかったことを実現しました。その結果、多くのメディアに取り上げられ、全国に生駒市の取組を発信することができました。	○		○			
15票	13票	2票	2	オンライン番組「いこまちテレビ」の実施	広報広聴課	広報広聴課 課長 大垣弥生	コロナ禍において、市民とのコミュニケーション方法が変わる中、庁内9課と連携し、各事業のオンライン化を実践する機会として令和3年2月21日にオンライン番組「いこまちテレビ」を実施。クイズ形式でおすすめの公園を紹介したり、女性消防士と男性看護師がジェンダーに関するトークセッションをしたりしたほか、市民企画の4番組も含め「いこまのことがちょっと好きになる」をテーマに趣向を凝らした11番組を5時間放映した。	当日のYou Tube再生回数は1600を超え、視聴者に実施したアンケート結果では20代～40代の参加者が8割を占める。番組全体の満足度や、生駒市の印象が「よくなった」と答えた人は9割を超えた。若手職員が成功体験を共有できたことに加え、参加した職員の大多数が「業務に関する日常のコミュニケーションが縦割りを打破し、施策間連携を生む」との声を寄せる気づきにつながったことが何よりの効果だったと考えている。	○	○	○			
5票	3票	2票	3	全国広報コンクール（広報企画部門）入選	広報広聴課	広報広聴課 課長 大垣弥生	令和2年10月24日に、「ローカルフォト」を学ぶ講座を開催。写真家のMOTOKOさんをゲストに迎え、人と人をつなげる写真の力について学んだ後、3つのエリアに分かれて街を歩き、そこで出会った人に話しかけて写真をとるというルールで撮影会を実施。行政が地域を発信するのではなく、地域と関わり地域を発信する人を増やすことが狙い。令和3年度全国広報コンクール（(公社)日本広報協会）において、応募作品87点の中から入選を受賞した。	絵葉書を家の窓一面に貼ってギャラリーにされている方に意図を聞いたり、通り過ぎるだけだった洋服屋さんに地域への想いを聞いたりする中で「住んでいるまちを盛り上げたい」「自分の写真がまちの力になることを知った」という言葉が聞かれ、参加者自らが「ローカルツアー」の企画や、市民活動の「いこまカメラ部」への参加をするなど自発的な行動にもつながった。	○					

令和3年度業績表彰結果

得票数	内訳		No.	標題	個人名/組織名	推薦者	概要	効果	該当事業種別					
	HP	1階掲示							発信・表彰	市民協創	チャレンジ	災害支援・善行	地域貢献	その他
									6	5	10	2	1	1
5票	2票	3票	4	庁内公募で職員のキャリア自律を支援	人事課・企画政策課	都市整備部 部長 北田　守一	来年度から取り組む重点施策のうち、担当課が増員を希望する9事業(7所属)について、担当する職員の庁内公募を奈良県で初めて実施した。	・職員が自らのキャリアを主体的・自律的に考え、その意欲や能力を職務に反映させることで、職員の成長やモチベーション維持向上に資すること。 ・所属長自らが自分の課にどんな人材が必要で、どう運営していくかを考える機会としても位置づけ、予算だけではなく人員の面からも主体的にマネジメントに取り組むことで組織の活性化に繋げていくこと。			○			
2票	0票	2票	5	総務部ブラッシュアップ研修	総務部	市長公室 公室長 増田　剛一	部長のリーダーシップのもと、課という単位を超えて総務部一丸となって様々な事業に対応できる力をつけるため、部内全ての課が毎月交代で研修を実施し、毎回多くの職員が受講された。	参加者が部内全課の幅広い業務に関する内容や最近の動向等を知ることができたほか、新たな知識の習得や改めて学ぶことによる実務の再認識に繋がった。 また、他課の業務を知ることで幅広い視点で様々な業務に取組むことができるようになり、部全体の実務能力の向上に資することができた。（受講者の声より）			○			
16票	4票	12票	10	初めての試み！オンライン番組にてコミュニティバス「たけまる号」のPR	・建設部事業計画課 交通対策係 技師　　白川　真鈴 ・建設部土木課 地籍調査係 事務員　吉廣　勇人	建設部 部長 米田　尚起	「生駒のことがちょっと好きになる」をテーマにしたオンライン番組「いこまちテレビ」を令和３年２月２１日に配信し、その中の番組「徒歩で登れ！暗峠」に出演しました。番組では、たけまる号バス停「山崎新町」から暗峠まで徒歩で登る様子を実況生中継。宝山寺の参道や暗峠のPRも交えながら、コミュニティバスのPRを行いました。	当日は約90名の方にご視聴いただき、市内だけでなく市外の方にもたけまる号を知ってもらうことができました。また、累積再生回数はスタート編は270名、中間編は75名、ゴール編は105名となっており、多くの方に視聴していただいています。	○		○		○	
8票	1票	7票	11	幅広い知識の習得と活発な意見交換を！チーム都市整備部勉強会	都市整備部	市長公室 公室長 増田剛一	これからの業務遂行には係、課を超えた知識の習得や連携が必要であることから、部長のリーダーシップのもと、毎月最終水曜日を部内勉強デーとし、部の施策の方向性や各係の事業内容などを互いに伝え合う機会が設けられた。上半期は「各係の事業を知る」、下半期は「主要施策の方向性を知る」をテーマとし、各担当者が説明した後、意見交換を行った。	「日頃疑問に思っていたことを聞けた」「自身の業務と連携できる点が見つかった」「これから一緒に事業を進めたい」など、前向きな声が多く聞かれた。また、単なる事業説明ではなく、事業の課題や悩みを参加者に相談する場としても活用され、新鮮なアイデアや考え方に触れる良い機会にもなった。（受講者の声より）			○			
10票	2票	8票	12	～住まい方・暮らし方を選択できるまち～　”みらいのいこま”をみんなで紡ぐ『都市計画マスタープラン』	都市整備部　都市計画課	都市整備部 部 長 北 田 守 一	本市の将来都市像『自分らしく輝けるステージ・生駒』を都市づくりの視点からめざし,実現していくための計画『都市計画マスタープラン』（都市づくりの指針）を、様々なデータ調査・分析、市民意識調査、検討を経て策定した。	・ライフステージや価値観の違いによる多様なニーズに応じた”住まい方を選択できる暮らし”の実現 ・自然環境や歴史･文化資源などの魅力ある資源を活用した来街者と地域との新たな交流が生まれる”生活に彩りのある質の高い暮らし”の実現 ・生活サービスを過度な負荷なく誰もが享受することができ、新しい生活様式に対応できる”安全･安心･健康な暮らし”の実現		○	○			
2票	0票	2票	13	～最先端と自然・文化が共生する新たな時代の都市～『学研高山地区第２工区」	都市整備部　都市計画課 学研推進室	都市計画課 課　長 有 山 将 人	学研高山地区第２工区の地権者、市民、有識者、関係機関の参画による「まちづくり検討会」を設置し、これまで９回の会議開催を経て、本市が目指す学研高山地区第２工区のまちづくりの方針を「学研高山地区第二工区マスタープラン(素案)」としてとりまとめた。	「学研高山地区第二工区マスタープラン(素案)」のとりまとめにより、本市のまちづくりの方針を広く周知・共有することが可能となり、民間事業者の参画意欲の向上や地権者の理解が深まり、早期事業化に結び付けることができる。 　高山地区ならではの地区周辺の豊かな自然環境と文化、学術、産業が集積するメリットを活かした新たなイノベーションを創出するまちの実現。			○			
12票	1票	11票	15	六十谷水管橋破損に伴う和歌山市への応急給水活動	生駒市上下水道部（上水道部門）	上下水道部 部長 岸田　靖司	令和3年10月3日の六十谷（むそた）水管橋破損によって断水被害が発生した和歌山市に対し、公益社団法人日本水道協会奈良県支部より相互応援派遣要請があった際、現地に給水車と延べ14名の職員を派遣し、令和3年10月4日から令和3年10月10日までの7日間、応援給水活動を行い復旧に尽力しました。	和歌山市と連携し、市内医療施設や福祉施設等に給水活動を実施し水道水の確保に寄与しました。 　また、この経験を本市の災害対策にも生かしていくための取組を行っています。				○		
15票	3票	12票	18	Bibliobattle of the Year 2021　大賞受賞	生駒市図書館	図書館 館長 西野　貴子	生駒ビブリオ倶楽部と協働して実施しているビブリオバトルのイベントについて、コロナ禍においてもオンラインを活用するなど様々な工夫を柔軟に取り入れ、継続して精力的に開催したことが高く評価され、BoY2021の優秀賞を授賞。同賞はほかに2団体が授賞したが、10月にネット投票が行われ、当市の取り組みが最も得票数が多かったため、大賞を獲得した。	コロナ禍という逆境で図書館への来館者が減少しているなか、庁内でもいち早くインターネットを活用しイベントを開催した結果、気軽にビブリオバトルに参加できるようになり、また、当市の活動を広く市外に広めることもできた。ビブリオバトルの普及にも貢献し読書推進に繋がった。	○	○				
44票	17票	27票	19	クロス所属育成プラン	消防本部	消防本部　総務課 課長 松井 卓士	今年度、消防本部の新たな取組みとして、「クロス所属育成プラン」要綱を定めました。この取組みは、消防職員全体の8割を占める消防署員から希望者を募り、消防本部の業務を体験させることで、業務への理解を深めることと事務能力の向上を目的とした人材育成の一環とした取組です。	消防署の業務は、災害出動が主体の２４時間勤務で、事務が主体である消防本部とでは業務内容が大きく異なることから、人事配置が固定化されやすい傾向にありましたが、消防署員が消防本部の業務を体験することにより、個々の事務能力の向上が図られるとともに消防本部業務への理解が高まることで消防本部と消防署の計画的な人事異動にも反映できると期待しています。 　令和３年末実績：申込数５１名、参加人数３９名、延べ回数７５回			○			
407票	78票	329票												